

## 2018 年度 全国総会・大阪大会

大会テーマ：第45回全国頸髄損傷者連絡会総会・大阪大会

「人生を回復するための頸損連の役割」

シンポジウムテーマ：地域で自立して暮らそう 高位頸髄損傷者の人生を回復する道  
～重度の障害があっても自分の人生を取り戻しリカバリーできる社会へ～

### 開催趣旨

人生の半ばで事故や病気等で重度障害を負えば誰しも絶望的な気分になりますし、在宅生活に戻ることさえも困難になります。誰もが自分の人生を取り戻そう、作り直したいと一歩踏み出すには、まだ圧倒的な情報不足から厳しい状況にあります。それでも地域であたりまえに暮らしたい。自由に活動し、積極的に社会参加したい—そう思うのは、人として当然のことです。

さまざまなレベルの頸髄損傷者が意見交換し、人生回復の実現に向けてどのような道筋があるのかをともに考えます。

### ■重度障害を負った中途障害者の不安で困難な生活実態。

事故や病気のために身体機能を失い、自分の身体がどうなってしまったのか理解できないまま入院している人がいます。時間が経っても失ったものがもどる事は少なく未来への不安を抱えたまま転院や退院の期限だけが迫ってきます。たとえ退院をして在宅生活を始めても、今の日本では、法律や制度、社会サービスが追いついていません。特に最重度の呼吸器使用者の生活では、24時間の見守りと、時間を決めての痰（たん）の吸引など、身体ケアとは別に医療的ケアが必要な人が多いところから、介護の負担はほとんど家族にのしかかり、日夜介護との闘いで疲れ、家庭崩壊に至るケースもあります。

### 開催目的

- 1 シンポジウムを開催することによって、社会に頸髄損傷者の存在とその生活実態を知らせる。
- 2 シンポジウムを通じ、医療関係者や福祉従事者、ソーシャルワーカーといった専門家と連携しながら、障害を負っても前向きに人生のリカバリーができるような相談支援体制をネットワークとして構築していくきっかけを作る。

### 第一部 基調講演「人工呼吸器使用者からのメッセージ」

頸髄損傷で人工呼吸器使用者となった当事者から、人生のリカバリーとなったきっかけや日常生活におけるポイント等を、自身の体験に基づく事例を、当事者を支えている関係者を交えながらお話していただく。

### 第二部 パネルディスカッション「さまざまな頸損者からの発信」

年齢や性別などさまざまな頸損者から、受傷時はどんな点に困難を感じたのか？また、それを乗り越えられるポイントは何だったのか？相互に意見交換しながら、支援する関係者も含め人生のリカバリーにつながる情報を発信・共有する。

## 開催概要

- 日時／2018年5月5日（土） 午後2時～午後4時30分（予定）
- 会場／ホテルアウイーナ大阪 葛城 （大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12）
- 主催／大阪頸髄損傷者連絡会
- 後援／
- 来場対象者／全国頸髄損傷者連絡会の各支部会員とその家族および支援者、人工呼吸器をつけて在宅・病院・施設で生活している当事者とその家族、リハビリテーション関係者、医療関係者、研究者、社会福祉関係者、保健衛生関係者、行政関係者、教育関係者、企業関係者、学生等
- 資料代費用／1,000円
- 来場者数／約120名（見込み）

## 今後の活動

同じ障害を持つ仲間が急性期中途障害者のもとを訪ね、ともに悩み、ともに考えるセルフヘルプ活動を通して、一旦白紙同然になった自分の人生を取り戻し、作り直すためのリカバリーをサポートしてきたことで、多くの方が障害を受容し、前向きに生きられるようになりました。今後も病院や自宅を訪ねながら急性期中途障害者をエンパワメントするセルフヘルプ活動を継続させながら、シンポジウムをきっかけにして、医療関係者や福祉従事者、ソーシャルワーカーといった専門家と連携しながら、障害を負っても前向きに人生のリカバリーができるような相談支援体制をネットワークとして構築し自立した生活につなげていきたい。